

みんなのた場

スポット
ライト

アップサイクルで魅力発信

鮎川浜 齋藤舞美さん

魚の宝石 耳石アクセサリー

鮎川浜の齋藤舞美さんは、もともと市外の出身ですが、17歳の頃に初めて鮎川浜を訪れた際、一生鮎川の海の景色を見て生きていくような運命を感じたそうです。その後、縁あって鮎川浜に嫁ぎ20年が経ちます。

鮎川がにぎやかだった頃から暮らしてきた齋藤さんは、震災により変化していく街並みを見つめてきた中で、小さなことでもいいから、一人が地域を盛り上げる必要があるのではないかと感じました。

齋藤さん自身も、地域の特色を生かした活動ができないか、思いを巡らせていたところ、知人から魚の耳石のことを教えてもらいました。

耳石とは、炭酸カルシウムでできた乳白色の組織で、魚の頭骨内の左右にあり、体のバランスを保つ働きをしています。魚の年齢や生育環境の魚類研究にも活用され、魚の種類によって大きさや形が異なり、魚の宝石と呼ばれています。

土地柄、魚を調理する機会が多く、普段から、食べるだけで

で、骨や内臓をただ捨ててしまうことがもったいないと感じていた齋藤さんは、耳石をアップサイクル(捨てられるはずの物に新たな価値を加えて再生すること)することで、資源を活用し、港町らしい作品ができるのではないかと考え、アクセサリーにすることを思いついたそうです。

アクセサリー製作は令和2年から開始し、現在は、「OTO L I T H(オトリス・英語で耳石の意味)」という名前で商標登録を取得し、販売もしています。

耳石が透明の樹脂に閉じ込められたアクセサリーは、魚によって違った雰囲気があり、海とつながりを感じる一品として、港町鮎川にふさわしいお土産となっています。

齋藤さんは、廃棄される大漁旗から帽子を製作するなど、活動の幅を広げており、これからも、地域の魅力発信に一役買ってくれそうです。

☎ 45-2501
齋藤舞美



製作場所の自宅からは鮎川の海が見えます



作品には耳石を採取した魚の写真が添えられています

キラリ★まきっこ ①

お父さんみたいな漁師になりたい

石巻小学校 阿部 結斗さん(5年生・11歳)

僕の夢は漁師になることです。お父さんが福貴浦でカキやワカメの養殖の仕事をしていて、学校やスポ少の練習がない休みの日は、僕も一緒に船に乗って魚を手伝っています。

まだまだ先のことだけど、中学校を卒業したら宮城水産高校に入って海の生き物のことを勉強したいです。海の生き物が好きで、この前の図工の時間も大きな魚とワカメを版画にしました。

運動が得意で、スポ少で野球をやっているときも楽しいけど、船に乗っているときが一番楽しいです。小さい頃から乗っていて、酔ったりもしません。普段は優しいお父さんですが、仕事をしている姿はとてかっこいいです。お父さんのように優しくてかっこいい漁師が僕の憧れです。



市報いしのまき 第308号 令和6年4月1日発行

発行 石巻市総務部秘書広報課 ☎0225-95-1111 FAX)23-4340
〒986-8501 宮城県石巻市穀町14-1

編集/制作 (株)石巻日日新聞社
古紙/パルプ配合の再生紙と環境に優しい植物油インキを使用しています。再生紙としてリサイクルできます。「ごつがみ類」として分別してください。

住民基本台帳による石巻市の人口と世帯数(前年比)

令和6年2月末現在	人口	134,255人 (▲2,102)
	世帯数	62,357世帯 (228)